



会場の様子

バリアフリー2018 ふくせん特別講演 平成30年改正に伴う福祉用具サービスの対応について ふくせん老健調査研究事業の報告

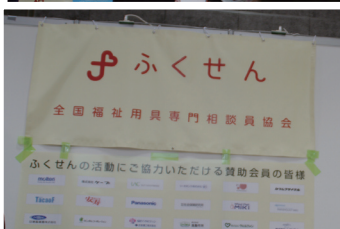
去る平成30年4月19日（木）に、バリアフリー2018（於：インテックス大阪）の特別講演として開催されたシンポジウムは、本会が平成29年度厚生労働省老人保健健康増進等事業として取り組んだ「福祉用具の適切な貸与に関する普及啓発事業」の報告がテーマ。平成30年改正が施行されるにあたり、福祉用具専門相談員が果たすべき役割とは何か。また、本会が検討を重ねて完成、発表した「ふくせん福祉用具サービス計画書」（確定版）を業務にどう取り入れ、活かしていくか。福祉用具専門相談員に限らず、高い関心が集まった。

開会にあたり、本会の岩元文雄理事長は、平成29年度、老健事業での4会場に続いて全国で説明会・研修会を行い、60会場・4700名を超える参加者があったことを報告した（実施の詳細については、ふくせんレポート第21号に掲載）。

「本日のシンポジウムでも、ぜひ多くを得ていただきたい。今後も共に向上・邁進していきましょう」（岩元理事長）。

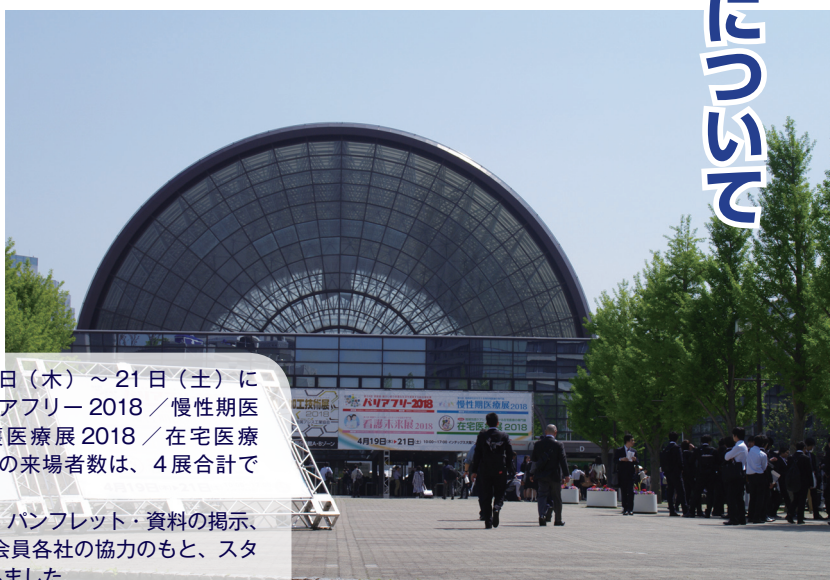
大きな転換期を迎えた福祉用具貸与

コーディネーターは、本会の老健調査研究事業の検討委員会で委員長を務めた白澤政和氏。白澤氏は、まず、今回運営基準が改められた3点（①商品の貸与価格とともに全国平均貸与価格を説明すること、②機能や価格帯が異なる複数商品を提示すること、③福祉用具サ-



2018年4月19日（木）～21日（土）に開催された「バリアフリー2018／慢性期医療展2018／看護医療展2018／在宅医療展2018」。3日間の来場者数は、4展合計で88,260人でした。

本会のブースでは、パンフレット・資料の掲示、配布のほか、賛助会員各社の協力のもと、スタンブラリーを開催しました。



ビス計画書をケアマネジャーにも交付すること」をあげた。

福祉用具サービス計画の中で、当該商品の全国平均貸与価格を説明（平成30年10月から）、機能や価格帯が異なる複数商品を提示する（平成30年4月から）福祉用具専門相談員の業務のためのツールが「ふくせん福祉用具サービス計画書」である。委員長としてガイドラインの作成にもあたった白澤氏は、書面にし交付することには、複数の意義があるという。

- ①利用者、ケアマネジャー、そのほかのサービス担当者間における情報共有・共通理解
- ②選定基準を明確にすることでモニタリングがスムーズに行われる
- ③事故の防止
- ④福祉用具専門相談員のスキルアップ
- ⑤利用者の自己決定に資する

利用者の意思決定を的確にサポート 価格の根拠を明確に

「福祉用具貸与は、ご利用者側に『この用具を使おう』という意味がなければ成り立たない」と語ったのは、検討



渡邊 慎一 (わたなべ しんいち) 氏
一般社団法人神奈川県
作業療法士会 顧問

たのは、検討委員会副委員長を務めた渡邊 慎一氏。福祉用具専門相談員が、自立支援の観点を



白澤 政和 (しらすわ まさかず) 氏
桜美林大学大学院
老年学研究科教授



岩元 文雄 (いのもと ふみお) 氏
本会理事長

もって提案した福祉用具の中から、明確な根拠と意思でご利用者が選ぶ。それがあべき福祉用具貸与の形だ。選定理由をわかりやすく示すのはこれまでと同様で、加えて複数の選択肢を提供する。1機種しか該当するものがない場合もあるだろうが、「(自社で)この商品しか扱っていないからこれを」ということはあってはならない。

また、一般的には「価格が安い」ということが商品選びの決め手となることは多い。しかし、貸与価格Ⅱ商品の価格ではなく、各事業者のサービスの質や内容も異なる。福祉用具貸与が自由価格である大きな意味がそこにある。

「全国平均貸与価格より高い場合、その差額が何の価格なのか、なぜその価格なのかを示す。自分が提供する『サービスの質』の価格がいくらなのか、専門職として自信をもって示せなければ」(渡邊氏。)

一層重要度が増した福祉用具専門相談員の業務 サービス提供に不可欠な要所を担う

「実際の運用面での徹底は引き続き取り組んでいくべき課題だが、何のために行うのかについてはか

ば十分なのでは?」「どこからどこまでやればいいのか?」という疑問も寄せられたという。岩元氏は、業務の中で負担ととらえられるかもしれないしながらも「すべてきちんと対応してほしい」という。福祉用具サービス計画書はケアマネジャーとの連携において必要な書類なのだというところ、我々が福祉用具サービス計画をきっちり作成しなければ福祉用具のサービスは提供されないということ。それが認められ、今般、制度に位置づけられた。4月施行分、10月施行分とも、現場レベルでは、要検討課題や意見もあることだろう。

「福祉用具専門相談員に求められる役割をきっちり果た



▲ 出席者は170人超。聴講希望者は開場前から続々と集まり、満席となったうえ、立ち見する方も出た。質疑応答では、活発に手が挙がった。

なり多くの方にご理解いただけたのでは」。岩元理事長は、平成29年度より精力的に普及啓発を行ってきた手応えを語った。

全国的に開催した研修・説明会では様々な質問や意見が交わされた。中には、「口頭でお伝えすれ

たし、さらなるスキルアップ、レベルアップをしていきましょう」(岩元氏)。

専門職同士が力をあわせ互いの専門性を発揮して
よりよい介護サービスを実践



松本 琢磨 (まつもと とくま) 氏
厚生労働省老健局高齢者支援
課福祉用具・住宅改修指導官

助言者と
して招いた
のは、平成
30年4月に
厚生労働省
の福祉用具・
住宅改修指
導官に就任

した松本琢磨氏。作業療法士としての豊富な臨床経験をもつ松本氏は次のように語った。

「介護の現場では、いかに専門性を発揮しあうかが重要。リハビリテーションの専門職と福祉用具の専門職である福祉用具専門相談員、在宅にかかわる専門職であるケアマネジャーとの連携が、よりよい介護に結びつきます。皆さんも現場で若い作業療法士と一緒にすることがあるでしょう。まだまだ経験値も皆さんに及ばないことが多いと思います。リハ専門職からの注文もあるでしょうが、『こちらの福祉用具の方がより適している』という提案を福祉用具専門相談員の皆さんからしてほしいし、するべきだと思います。そのようにしてチームで臨んでほしいですね」。

バリアフリー2018 ワークショップ



▲ 会場は満席となったうえ、立ち見する方が出るほど盛況で出席者は150人超。



金沢 善智氏
(かなざわ よしのり)
本会理事、株式会社
バリオン代表取締役



「専門職としての自分の価値が明確に示される。選ばれ
る福祉用具専門相談員」(金沢氏)。

ふくせんワークショップ

複数提案と全国平均貸与価格説明義務に対応した新サービス計画書

「今このときに福祉用具専門相談員がしなければならないこと」

バリアフリー2018の2日目、4月20日(金)にワークショップを開催した。主題は、「ふくせん福祉用具サービス計画書」(確定版)の具体的な説明と、改正下において、福祉用具専門相談員はどうあるべきか。本会理事の金沢氏が熱弁をふるった。

大幅なプラス改訂が望めない今後

加算のハードルをクリアする「質の向上」を

平成30年の介護報酬は小幅ながらプラス改訂であった。しかし、今後はプラスは望めないというの

が金沢氏の見立てである。カギは相当数新設された加算をどうとるか。そのハードルは決して低くはない。そこをクリアするためには適切かつより質の高いサービス提供が求められる。

「福祉用具貸与については今のところ加算は設定されていないが、今後その可能性を視野に入れるならば、より質の高い福祉用具サービス計画を作るのが重要」(金沢氏)。

提供するサービスの記録が残ることの意義

計画書の交付を受けたご利用者やケアマネジャーにとって、選択等の決め手となるような計画書が書ける福祉用具専門相談員。専門職としての質が問われる時代となった。また事業者にとって、チャンスともなる。

全国ブロック長会議



小林氏が講師を務めた特別講演。会場の様子

長を含む36名が出席した。会員増強や会員を中心としたスキルアップ研修、SV研修など平成30年度の事業計画(案)が報告された。他の専門職と連携するためにもスキルアップは、まったなしであるとし、本部および各ブロック全体の方針として確認しあった。

平成30年度全国ブロック長会議開催

去る平成30年4月19日(木)、全国ブロック長会議を開催した。全国35ブロックより、ブロック長や副ブロック

【特別講演】平成30年度制度改正を受けての福祉用具専門相談員のあるべき姿について
講師：小林毅(こばやし たけし)氏
学校法人敬心学園 大学設立準備室
リハビリテーション領域教員
前厚生労働省福祉用具住宅改修指導官

【消費者庁より】消費者庁消費者安全課鈴木邦和氏より「ハンドル形電動車椅子の安全な利用に関する知識・技能についての教育・訓練の基本項目」についての説明があった。

本会岐阜ブロックでは、昨年来、警察からの要望に伴い、体験型の安全研修を行っている。他のブロックにおいても、他団体等との協力体制も視野に入れた展開を検討していく考えた。

◆事務局より◆

「福祉用具サービス計画作成ガイドブック 第2版」発行！



A4判 約180頁
好評発売中

福祉用具専門相談員必携のガイドブックの改訂版。ふくせん新様式「選定提案」に完全対応しています。

※中央法規出版外課にて。
会員特価2527円(一般価格2808円)



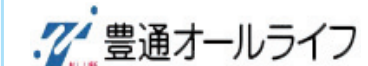
ふくせんレポート 第022号

発行所 一般社団法人 全国福祉用具専門相談員協会
〒108-0073 東京都港区三田 2-14-7
ローレル三田 404
TEL: 03-5418-7700 FAX: 03-5418-2111
URL: <http://www.zfssk.com/>
発行日 2018年6月22日
編集協力 株式会社 東京コア

賛助会員各位
※いつも協力ありがとうございます。



RT.WORKS



(2018年6月8日現在)